

恵庭市総合計画審議会第2回専門部会

(産業・観光・まちづくり部会) 議事録(要旨)

日時	令和7年5月9日(金) 14:00~16:00
場所	恵庭市役所 301 会議室
出席者	小林 祐一 委員(公募)
	熊野 稔 委員(公募)
	落合 信也 委員(恵庭市商店会連合会)
	小関 堂寛 氏 (道央農業協同組合)
議事	・審議事項
	・第6期総合計画の基本構想(素案)について
	(1) 基本目標5について
	(2) 基本目標6について

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
素案審議	●部会長 2035年までの総合計画において、10年後の農業生産者はどのような状態になっていることを期待されますか。
	●A委員 本日は姉崎委員が欠席のため、私が代理で出席します。農業生産者の増加は困難かもしれませんが、農地の面積は維持したいと考えています。新規就農者数は多くありませんが、道央農業振興公社(恵庭、江別、北広島、千歳を含む道央圏)の行政支援により新規就農者の育成が行われています。毎年2~3名の新規就農者がおり、各地区に入っています。一人当たりの経営面積は増加すると予測されますが、農地を維持しつつ生産効率を向上させる方向性が望ましいと考えます。恵庭は札幌近郊に位置しており、全道的に見れば恵まれた立地条件にあると感じています。
	●部会長 恵庭市として農業をバックアップし、これを恵庭の特産品としてアピールする計画は、特に大規模なものがあるのでしょうか。

素案審議	●A委員 農業まつりはコロナの影響で一時中断しましたが「はなふる」で再開しています。
	●部会長 総合計画の「産業・観光」という部分において、農業が占める割合はかなり大きいと認識しています。農業の担い手確保や生産性向上による農業経営の安定化に、この総合計画がどれだけ貢献できるのか。また、農商工連携や活発な地域経済活動を通じて、中小企業や小規模事業者の経営も充実し、ひいては小規模農家の経営も安定させたいという恵庭市の考え方があると考えます。
	●A委員 大規模農家だけが農業者ではありません。「生涯現役農業」という言葉もあるように、大規模な経営を行う方もいれば、直売所で販売しているような小規模な農家もいます。規模の大小に関わらず、生涯農業に携われるような形態にも対応していきたいと考えています。
	●副部会長 グリーンツーリズムのような、一次産業としての可能性は農業にはありませんか。
	●A委員 本当に収入を得て生計を立てられるかという点には疑問が残ります。経営という観点からはやや難しいと感じます。
	●副部会長 移住と新規就農の組み合わせは、今後の可能性として考えられます。食料・農業・農村基本計画が改正され、例えば空き家に入居し、周辺の土地で農業を営みたい場合、以前は必要であった農家手帳の要件が緩和され、より広い面積で農業も併せて行えるような流れになっています。このような新規就農と空き家政策、移住政策を効果的に組み合わせることで、今後は大きな期待ができるのではないのでしょうか。
	●事務局（高橋次長） 恵庭市は大規模災害に備え、3日分のアルファ米の備蓄を行っています。また、民間との協定も締結しています。備蓄については、小学校、中学校、公民館などに食料、水、ベッドなども分散して備蓄しています。最近では市民会館にも緊急貯水槽が設置され、道の駅にも貯水槽がありますが、道の駅は広域的な恵庭市の収容避難所に指定されているため、防災倉庫も備えています。そこにはバッテリーなども国土交通省の援助を受けて設置されていま

素案審議	す。
	●副部会長 そうした基盤があるため、第6次計画では防災道の駅指定に向けた検討を、国土交通省への陳情という形ではなく道庁を通じて進めることになると思います。全国で100箇所程度の防災道の駅を整備する構想がありますが、現在39箇所と少ない状況です。道内でも離れており、防災道の駅として指定されれば、さらに防災機能が拡張され、北海道開発局からの資金が投入されるため、恵庭市の財政負担が軽減されます。現在39駅ですが、国土交通省の道路局は100箇所程度まで増やす意向であり、今後の第二次、第三次指定に向けて手を挙げるべきです。この計画の中に盛り込んでおけば可能だと思います。
	●部会長 前回の振り返りになりますが、施策が1から7まであり、前回はその意見を募りました。ガーデンツーリズムにおいては、質の高いガイド、有償ガイドの提案がありました。外国人観光客が多く訪れるため、外国語での通訳と、ガーデニングの紹介もできるガイドを増やすべきだと感じました。 次に3番目の商工業の振興についてですが、宴会場が不足しているという意見がありました。恵庭に宿泊して観光を楽しむという点では、一般的なホテルやビジネスホテルはありますが、数は3、4軒しかなく、その他は小規模な旅館ですので、観光客向けの宿泊施設を新設できないものでしょうか。人口5,000人程度や1万人以下の市町村でも宿泊施設が充実している道内の例もあります。恵庭の温泉施設としては「ほのか」など2箇所ありますが、簡易宿泊可能なスーパー銭湯のような施設を臨時的な宿泊施設として整備し、恵庭に滞在して楽しんでもらうことも検討すべきだと考えます。 今回は議論されませんでしたでしたが、企業誘致や雇用の促進について、恵庭市はどのような考えをお持ちですか。
	●事務局 現在、売却可能な土地がない状況で、企業が既に購入して保有している未利用の土地があるのみです。そのため、市が所有する工業団地はありません。そのため、未利用の土地の斡旋などを行うことしかできていない状況です。
	●部会長 既に売却され、企業の建設予定があるということでしょうか。雇用を創出するには、そこに企業が工場などを建設しないと雇用は生まれません。今後の10年間でどのような見通しですか。
	●事務局 現在、ラピダス社の波及効果を全道に広げるため、5月7日に北海道バレ

素案審議	ービジョン協議会が立ち上がったと報道がありました。その中で、工業団地を拡張する構想が示されています。また、工業団地の拡張に伴い、未操業の場所はほとんどなく、これまでも継続して雇用を創出してきている状況です。
	●部会長 雇用というのは恵庭市で働いている人、あるいは恵庭市に働きに来ている人という認識でよろしいですか。
	●事務局 恵庭に居住し千歳に通勤する方、千歳に居住し恵庭に通勤する方も一定数います。恵庭市に居住する方が恵庭市内で就職するという考え方のみで捉えているわけではありません。
	●部会長 資料にある企業誘致や雇用の促進において、恵庭市民の雇用促進だけではなく、世の中全体の雇用促進というように広く捉えるということですか。
	●事務局 はい。居住の選択の自由も考慮する必要があると考えています。
	●部会長 子どもの10年後を考えると、市が誘致した企業に就職できなければ、大学卒業と同時に恵庭市を離れてしまい、恵庭市の人口空洞化につながる可能性もあります。そして、様々なまちづくりワークショップなどで中学生などから意見をいただいた方々が、10年後には恵庭市を離れているという現実も生じてしまいます。そうした状況をどれだけ減らせるかが重要ではないでしょうか。
	●事務局 はい。大学卒業と同時に転出するという状況や、企業によりますが事務職のような仕事が増えれば、恵庭に残ってくれる可能性も高くなると思われます。例えば文教大学も医療関係の卒業生が多いですが、恵庭市にそれだけの医療機関があるかという点、地元就職や地元に残る人が少ないのが現状です。それ以外の大学を卒業した方々で、事務系の仕事が恵庭に多くないため、自然と東京や大阪での仕事を選択する傾向があります。
	●副部会長 それでも恵庭市内の医療法人とは積極的に包括協定を結んでいます。恵み野病院とも先日包括協定を締結し実習も行い、実際にそこで看護師なども勤務しています。駅前の病院は他の医療系大学との連携が強く、様々な事情があるようです。 工業団地はかなり多く存在し、観光という点では、サッポロビールが近年

素案審議	リフォームされ、工場でありながら観光地としての魅力も持ち合わせています。しかし、工業団地は産業観光とまでは言えない部分もあります。企業の業種にもよりますが、景観が楽しめる工場や、会社のPRにもなる施設であれば産業観光の可能性も今後あるのではないのでしょうか。
	●事務局 そこが難しいのは、都市計画で工業専用地域に指定されている場所が多いことです。例えば、直売所などの設置は基本的に認められていない区域です。そのため、市としてはそこが工業専用ではなく、異なる都市計画の線引きであれば、様々な展開を企業にお願いすることもできるかもしれません。都市計画との関係で現状ではなかなか実現できていないのが実態です。
	●副部長 工業地域指定を準工業地域に変更し、商業サービス機能を取り入れられれば良いですが、ほとんどの土地が既に埋まっている場合、準工業地域になっても外部からの企業進出は難しいでしょう。
	●事務局 ただ、そこは国や都道府県の方針として、過去の東京、例えば多摩地区で中国へ工場が移転した後にマンションが乱立したような事例を考えると、やはり工業専用地域を準工業地域に変更するのは難しいと思います。
	●副部長 一方で、立地適正化計画が進行しており、コンパクトシティ政策が進められています。恵庭市もコンパクトな都市であると言われることもあります。行政の観点から見ると国土交通省から誘導施設への民間補助事業を受けるためには、立地適正化計画を策定する必要があります。計画策定自体にも補助金が出るため、これを進めています。その中で、駅周辺の商業サービス機能の集積や充実は今後重要になるのではないのでしょうか。
	●事務局 立地適正化計画は進めていかなければなりません。しかし一方で、恵庭駅に限った話で言うと、駅前通り商店街周辺の都市計画における商業系の地域が少なく、商業施設が立ちにくいのが現状です。都市計画の線引きの中では、なかなか難しい面があるというのが実態です。そのあたりも立地適正化計画の中で議論になれば良いと思います。そのあたり都道府県がどのように動いてくれるか、市がどうしたいか、都道府県がどう動いてくれるかということも非常に重要だと思います。
	●副部長 7 万人程度の人口がいるのに高層利用が少なく、民間のマンション開発力が低いのではないかと思います。もう少し住宅の高層化も検討しないと人口

素案審議	密度が増えません。2 階建ての住宅が広がるニュータウンのような印象です。例えば、借り上げ型市営住宅として民有地を活用し、民間に建設してもらい、行政が 20 年間公営住宅として借り上げる、という事業を過去に実施していました。地主にとっては非常に有利な事業です。恵庭市も公民連携が進んでいるまちではありますが、それは自治体の財政負担を伴います。マンション業者がマンションを提供してくれるような中心部であれば、人口密度も維持できるのではないのでしょうか。 ●事務局（高橋次長） 柏陽に市営住宅を民間と連携して建設しているのですが、全国でも珍しい木造 4 階建ての建物です。今年の年末頃には入居が可能になると思います。 ●事務局 先ほどお話しした恵庭駅の都市計画図ですが、恵庭駅の駅沿いのごく一部しか商業地域になっていないため、高層の建物も建てづらい状況にあると言えます。 ●副部長 西側は比較的色彩分けされていますが、東側ですね。駅の文教大学側は本当に住宅地です。駅前通り商店街とされていますが、基本的には住宅地です。 ●事務局 そのあたりは、高層建築物が建設できるような場所ではないです。 ●部長 ショッピングセンターゾーンになるため、うまく連結させると面白いでしょう。若者の居住人口が多いエリアなので、商業と連結させると良いですが、現状では連結していません。 ●事務局 先ほど申し上げた場所が工業専用地域に指定されているため、直売所のような施設を建設できない状況です。また、「ほのか」がある場所は比較的自由な区域ですが、この辺りは工業団地であり企業が集中している状況です。恵み野駅の商店会は、B 委員を筆頭に若い方々が議論を活発に行い、行政とも連携して路側帯の駐車スペースなどを整備しています。商店会が町内会と非常に積極的に活動してくださっているおかげで、この通りは空き店舗にならず、現在も活発に機能しています。また、RB パークや図書館、ハイテクノロジー専門学校などがある場所は、都市計画の色が異なり高い建物が建設されている現状です。 ●部長 一つ質問ですが、漁川の団地中央通りの左側の橋はいつ完成しますか。
------	---

素案審議	●事務局 これは都市計画決定が行われただけであり、完成時期は未定です。
	●部会長 この橋が完成すれば、住宅構成や商業構成が大きく変化すると思います。例えば、この橋が繋がると文教大学の隣の道まで恵み野のハイテクから連続してカルチャーストリートになるなど、人の流れが大きく変わります。
	●事務局 そこからバイパスがあり、36号線沿いと旧36号線があり、JRがあるという状況でした。そのため、恵庭地区、恵み野地区、島松地区といった区分がありました。
	●部会長 恵庭駅や恵み野駅周辺のコンパクトシティ構想の中には、連絡通路的な道路や橋が含まれてくると思います。先日新聞で拝見しましたが、ダイイチがある場所から線路を渡る何かを建設するという記事が出ていました。
	●事務局（高橋次長） 島松で検討しているのが、西島松です。今、部会長が言われたその辺りです。
	●部会長 あの踏切は非常に通行しにくく、買い物にも不便です。千歳線は事故が多いので、アンダーパスという案もあります。将来的に2030年度以降に実施するのであれば、高架橋にした方がスムーズになるのではないのでしょうか。
	●事務局 北広島は坂の多い街なので、それをうまく利用して踏切をなくしていますが、恵庭は平坦な街であるがゆえにどうしても踏切が存在します。現在、跨線橋が架かっている箇所もあり、例えば36号線には跨線橋がありますし、しまむらさんのところや恵庭第一病院の横にも跨線橋があります。
	●部会長 第一病院の所の跨線橋は、数年おきに数ヶ月間も通行止めになります。3年ほど前にも数ヶ月間通行止めになっていました。
	●事務局 あの橋は改築ができないため、耐震改修という形で改修を行っています。今回も3ヶ月程度ですが冬場には実施されます。
	●部会長 意外とあそこは高速道路から降りてきて、市内を抜ける道になっています。そういった幹線道路の整備によって、例えばこの9年間で商業地区や住宅地図が変化するといったことはありますか。

素案審議	●事務局 はい、そこは現在、都市計画のマスタープラン改定の中で、ほぼ完成しています。
	●事務局（高橋次長） それに付随して道路計画も策定していく必要があります。
	●部会長 道路計画の中には、あの橋と団地中央通りの連続性も含まれるということですね。
	●事務局 はい、構想があります。
	●部会長 まずはエリアを拡大して、本来は農業地区だった場所ですが、この辺りも農地がなくなるということでしょうか。
	●事務局 そのとおりです。
	●副部会長 波及効果を狙うために新しい土地利用を検討しているのですね。
	●部会長 ラピダスはそんなに将来性が高いものなのですか。
	●副部会長 それを核に、さらに広げていこうという動きです。国は既に数兆円規模の投資を行っています。
	●部会長 公営住宅について、市営住宅は理解できますが、例えば恵庭市が資金を負担しない道営住宅などはどうでしょうか。
	●事務局 先日 7 日の北海道バレービジョン協議会で、2050 年までに半導体関連企業を約 340 社誘致し、就業者を約 2 万人、年間総生産は 3 兆円にするという大規模な目標が示されたと報じられました。この計画には私たち自治体も参加しています。この背景も受け、工業団地の整備や企業誘致、雇用の促進にも力を入れていきたいと考えています。
	●副部会長 千歳市や苫小牧市でもすでに産業団地の造成が進んでいますし、恵庭市が他市に先んじて企業を取り込むには、住宅政策が非常に重要です。札幌に近い恵庭の立地を活かし、多様な高層住宅、特にマンションの建設を民間と連携して進めるべきです。ただ、そのためには土地の確保が大きな課題になり

素案審議	ます。
	●部会長 私が住んでいる恵み野の住宅地では、隣人も高齢で 10 月にマンションへ引っ越しました。築 30 年程度であれば、次に住む人が見つかる可能性はありますが、恵み野の西と南は昭和 56 年から 58 年頃に宅地開発が進んだため、築 40 年を超える住宅が多いです。駅に近いからといって若い人が移住してくるかという、古いから意外と来ません。
	●副部会長 恵庭地区は、本当に住宅地として最高の立地だと思います。
	●部会長 人口構成を考えると本当に若い人がいません。そして、私は恐らく第二世代で、その上の世代は 80 代です。しかし、80 代の方も本当に少なく、60 代は増加していますが、その空いた部分を基本目標 6 の移住・定住の促進の中で宅地の住宅の循環という政策で、行政がうまく手伝ってくれるのかどうかという点が重要です。恵庭、恵み野、島松駅周辺の良いところは、比較的早い時期に家を建てたものの、既に築 40 年や 50 年になっており、建て直すにしても、安く買い叩かれ土地代しか残らないといった話があります。これをうまく循環させるには、やはり行政の協力が不可欠です。
	●副部会長 柏陽地区の複合施設計画があります。既にインターネットでも公開されていますが、あの跨線橋の向こう側に公営の低層住宅があり、ほとんど入居者はいません。線路沿いは現在更地ですが、あの場所は今後どうなっていくですか。
	●事務局（高橋次長） 解体し、民間住宅ゾーンと複合施設になります。
	●副部会長 なるほど、柏陽地区の複合施設は進んでいるんですね。その建物で、跨線橋の向こう側に低層の公営住宅が広がっています。老朽化しているため、今後建て替わるのだらうと思っていました。築 60 年程度です。
	●事務局 この二つの区画は、現在民間事業ゾーンとして戸建て住宅の整備を検討しているところです。また、公営住宅の建設も進めています。複合施設と公園を整備する計画です。
	●副部会長 そのあたりの建て替えこそ、民間の高層マンション用地として活用すべきです。商業機能にも近く非常に便利な場所です。

素案審議	●事務局 高層建築物を建設できるかどうかは、最終的には都道府県が決定する都市計画のため、難しいのが現状です。
	●部会長 恵庭市としては、高層建築物建設の推進は行っていますか。高齢者の場合、除雪のことを考慮すると、マンションへの需要の方が多いような気がします。
	●副部会長 除雪対策を考えると、マンションは良いと思います。
	●B委員 何か大きな建物を建てるというのものもあるかもしれませんが、例えばダイイチのような商業施設でも空き店舗が出ている現状を見ると、商売が成り立たないという単純な理由があります。恵み野の商店街では、今も店舗付き住宅で30代の夫婦が店を構えるといった、今の時代に珍しい動きも見られます。なぜそれが可能かというと、商店の人たちや町内会、「花のまちづくり協議会」の人たちが協力してまちを維持し街並みが綺麗で、そこに住む人々がまちの魅力を形作っているから「ここでなら商売ができる」と思ってくれるからです。 恵み野のガーデニング活動は、自分の庭だけでなく植樹や管理まで行い、それが他の地域との差別化、魅力に繋がっていると活動を通して強く感じます。これはここ5年10年で始まったことではなく、恵み野地区で40年近く、皆さんが続けてこられたことで、その地区の文化とも言えます。これが循環していくことで、まちの魅力を維持できるのではないのでしょうか。 私の息子の同級生に、道外からラピダスで働くために恵庭に移住してきた方がいます。なぜ恵庭に住むのかと言えば、恵庭の方が住みやすいと感じたからです。大規模な企業誘致の話は私には大きすぎて分かりませんが、今ある地域活動を継続していくことが大切です。町内会への加入が減っているという現状がありますが、新規で来た人にも、なぜこのまちが魅力的なのか、自分たちの住んでいる場所がどのように維持されているのかを啓発していく地道な活動も必要だと感じています。そうすれば、住民が集まり、イベントもできるし、景観も維持され、商店街にも愛着が湧いて利用してくれるようになるでしょう。 大規模な商業施設の空き店舗が続出している現状を見ると、個人の店が集まる商店街の魅力を維持していくことは、簡単ではありません。私自身、13年前に恵み野で店を出す際、他の場所も見て「ここならやりたくないな」というところはいくつかありました。イオンのような大型店で全て揃える魅力

素案審議	も当然あると思いますが、商店街は駅前通りにあり、そこが寂れてしまうと、地域全体に大きな影響を与えます。若い人が起業したり、役員として中心で活躍したりすることが、次世代に繋がると思いますし、町内会の高齢の役員の方々も、そういう危機感を持って私の話を聞いてくれるのだと思います。
	●部会長 商業施設に入居すると、適切な固定費を支払い、売り上げが求められます。恵み野商店街と大規模企業の企業理念は全く異なりますが、大規模な店舗には、ワンストップショッピング、つまり衣食住が1箇所で全て揃うという利便性から顧客が流れてしまう傾向があります。
	●B委員 例えば苫小牧のような大規模な商業施設が建設されると、苫小牧駅周辺は全てシャッター街になる状況と同じではないでしょうか。利便性は向上したが、まちの魅力が低下する可能性もあります。結局ダイイチもあれだけ空き店舗が出ると、専門店街自体の魅力も低下し、さらなる出店が困難になると思います。それはダイイチの専門店街も商店街も同様で、今埋まっているからこそ魅力があるのです。もし店舗数が半分や3分の1に減ってしまえば、そこから大企業は入ってこないですし、個人店の集まりなので、そこで出店したいと思うかどうかという点では非常に難しい話になります。 数年前、盆踊りと商店街でやっていた花火大会と一緒に企画したところ、ものすごくたくさんの方が来てくれました。花火大会に行くのは大変ですが、恵み野では浴衣を着た子どもたちが盆踊りに来て、大人も楽しみ、歩いて帰れる。地域の方が自分たちで魅力を作っているのです。例えば、花火を上げるには警備が必要で、警備会社に頼むと1日10万円くらいかかりますが、町内会の防犯部にお願いするなど、地域の人たちのアイデアと工夫で魅力を生み出しています。 私が恵み野で商売を始めたのは、恵み野を1時間ほど散歩してみて、「いいまちだ」と感じたからです。ここで一生住むことになるだろうと思い、事業を成立させたいという気持ちもありますが、何よりも「住みたいまちかどうか」で恵庭を選びました。よく「なぜ恵庭に来たのですか？」と聞かれるのですが、「散歩してここに住みたいと思ったから」と答えています。この「いいな」と感じたのは、特に恵み野地区の緑の多さです。文教大学やハイテク専門学校でも起業を盛り込んだ学科ができたりして、商店街にも一緒に何かやらないかと声がかかることがあります。そうした若い人たちと、町内会のような上の世代の人たちが、今ある地域の資源を活かしていくことも良いと感じています。

素案審議	●事務局 補足ですが、部会長からお話があった空き家や流通については、恵庭市として「不動産流通サポート事業」という形で登録事業者を募集し、空き家・空き地の流通を促進する取り組みを試行的に行っています。また、B委員の話に関連して、前の部会で話のあった「家は古くなっても街並みは綺麗に」という言葉が心に残っています。恵み野ニュータウンができた時に掲げられた合言葉で、家が古くなっても、街並みが綺麗であればオールドタウンにはならず、むしろ文化的なものに発展していくという話でした。
	●B委員 私も毎年花のまちづくりに参加していますが、子どもたちが幼い頃からこうした活動に参加することで、将来、恵庭を離れても、このまちの魅力を覚えていて、戻ってくる可能性が増えるのではないかと感じています。町内会での植樹や除草作業は、恵み野だけでなく島松や恵庭地区でも行われているのでしょうか。
	●事務局 活動ができていないところも一部あります。市が実施する可能性もありますが、そのあたりも助成金を支給するなどして積極的に取り組んではいますが、町内会の方でも担い手不足という課題があるのは事実です。
	●部会長 B委員が言われる町内会というのは、所属されている恵み野西町内会ですか。
	●B委員 東西南北と里美の町内会連合会（町連）です。私は島松の町内会に入会していて、町内の清掃に参加しています。恵み野の方の町連は、商店会とも様々な活動を一緒に行っているため、協力する形で参加しています。
	●部会長 町内会は2町内会でよろしいでしょうか。私は東町内会に所属していますが、恵み野町連が活動する際には人員を出すなどしています。様々な町内会がありますが、恵み野の東町内会は加入者数が1番目か2番目に多いと聞いていますが、あまり積極的な活動は見受けられないです。
	●B委員 地道に行っているのではないのでしょうか。
	●部会長 住民と町内会自体で住民サービスを行っている町内会もあります。例えば班長の仕事を積極的に減らしているところもあります。様々な町内会がありますので、あくまで私の主観です。西、南、北の町内会は、比較的積極的に

素案審議	活動しています。
	●B委員 商店会と恵み野の町内会連合会などが一緒に動き出すことは、最近のことです。街並み協議会が設立されたり、盆踊りと花火大会を一緒に開催したりすることで、町内会と商店会が現在一体となって実行委員会を組織しています。今年からはイベント推進事業として市からの補助金も得られるようになりました。実行委員会の役員は、町連の役員と商店会の役員で構成されているというのは、本当にごく最近のことだと感じています。そのような連携ができると情報交換も非常に活発になり、協力体制が様々に構築されてきていると思います。 ちょうどコロナ禍の際、町内会のイベントなども全く実施できなくなり、町内会費を何に使うかという時に、商店会の商品券を大量に購入して下さったことがありました。少しずつ協力できる関係が、各町内会でも構築されつつあるのではないかと感じています。
	●副部長 連携は重要ですね。町内会と商店会のような連携は。コロナ禍で商品券を大量に発行して地元に還元すれば、最も喜ばれるでしょう。
	●B委員 最初に西町内会が商品券を購入してくださり、その翌年には東など他の町内会も買ってくれたそうです。このように、良い事例が広がり連絡が出来る関係性もできてきています。恵み野商店会の夏祭りでは露店が出ますが、焼き鳥や綿あめなど、地域の住民がほぼボランティアで運営してくれます。プロの出店者がいないため、販売価格も普通のお祭りよりずっと安いですし、子どもたちが1,000円持てば十分に遊んだり、買い物をしたりできます。これは地域で行っているからこそできることであり、他の地域から人を呼ぶよりも、会場のキャパシティや出店クオリティを考えると、学園祭レベルだからこそ面白い部分があると思います。何より、住民が自分たちも参加していると感じられる満足度や魅力は、他の祭りとは違うと感じています。このような連携や、お互いに感謝の気持ちが大切だと私は思います。
	●副部長 私の所属機関でも、過去に中心市街地の商店街のまちづくりを支援してきました。現在の女性団体連絡協議会、様々な女性団体との商店街の関係は良好です。自分たちの買い物場所が衰退していくのは寂しいから、女団連で応援しようという気持ちがあるようです。女団連が保有している資金、30万円程度で生きたマーケティング調査を行おうという話になり、当時、公募した100人の市民に一人3,000円ずつ渡し、日曜日の午前9時に商店街のホール

素案審議	に集ってもらい、商店街で買い物をするよう指示しました。2 時間程度で行動してもらい、必ず 3,000 円以上使い切るよう、不足分は自分で支払うよう伝えたところ、2 時間で 80 万円使ってくれました。倍以上の金額です。商店街に活気が生まれるのです。それは応援してあげようという気持ちがあるからで、家族や友人同士で店を回ったり、飲食したりしてくれます。ですから、イベントを多数開催しても客が来ないという商店の人は、客が離れていく際に、そうした活動も合わせて行くと良いかもしれません。必ず倍以上の効果が期待できます。ファンクラブを作るなども良いでしょう。 ●部会長 話は戻りますが、最初の「まちの魅力を生かした 交流やにぎわいが生まれるまち」のプロスポーツの誘致という部分について、どのような観点で既に動いているのでしょうか。 ●事務局 特段動いているものはありませんが、レバンガ北海道や北海道日本ハムファイターズ、エスコンフィールド HOKKAIDO などもありますので、そうした観点も必要だと考えています。恵庭市出身のスポーツ選手は市長への表敬訪問などもありますし、SNS などを通じた地域での応援隊もあると聞いています。例えばプロゴルファーの「阿部 未悠」さんも恵庭出身であり、応援する会のようなものが SNS で立ち上げられたりもしています。恵庭出身の選手ということで言えば、各地域で盛り上がるのではないのでしょうか。 ●副部会長 スポーツツーリズムやスポーツ合宿は、多くの人を呼び込みますが、宿泊施設が課題です。 ●部会長 合宿を誘致しようにも宿泊施設がないため、呼び込むことができません。恵庭の気候を活かせば、朝の練習には最高の地域です。そのため、プロスポーツの誘致ではなく、道東での事例が増えている宿泊を伴う合宿を誘致できないのでしょうか。恵庭市が費用を負担しなくても、例えば青少年交流の家のような施設を利用するなどはどうでしょう。 ●事務局 青年の家は解体され、現在は恵み野にある恵庭リサーチ・ビジネスパークに宿泊機能を有しています。その施設で合宿誘致なども可能であると考えています。これからプロサッカーのオフシーズンとなる夏場が合宿シーズンとなるような状況もありますので、そうした点も念頭に置いていきたいと考えています。そのように、そうした考えを含んだ形で「プロスポーツの誘致」という文言が入っているのではないのでしょうか。
------	---

素案審議	●部会長 プロスポーツという枠ではなく、このスポーツツーリズムという形の中で、例えば陸上競技ではハイテクノロジー専門学校は全国レベル、世界レベルですので、そういった観点から陸上選手の強化合宿にどうでしょうか、という提案です。しかし、それに対して陸上競技場の施設は十分なのか。現状の施設では強化合宿に対応できないのであれば、整備していかなければならないでしょう。それがこの10年間で達成できるのか、ということも、ただ紙に書かれただけでなく、具体的にどのような形で進めていくのかを市民の方に示し、年ごとにこうなるという絵を描きつつ、達成度を明確にしておくべきだと思います。このような計画は、第5期でできなかったことを第6期で完結させるという側面もあると思いますので、そうしたことも含めて、住民に3年後、10年後はこうなりますよ、ということを目に見える形で示すべきだと思います。
	●事務局 それは事業レベルでの説明ということでしょうか。
	●部会長 事後報告するのではなく、実現したことを毎年見える化していかないと、総合計画はいくら策定しても、何ができて何ができなかったのかが10年後にきちんと分かるようにしなければなりません。
	●事務局 その際に検証は行っていくものだとは認識しています。
	●部会長 ですから、10年後に結果が出た、ではなく、毎年その進捗が見えるようにすることで、市民からの意見もより多く出ると考えられます。本日は残り5分となりましたので、今回は基本目標5と6を総括するような形で進めたいと思います。
	●事務局 はい、今回は具体的な事業なども示しながら、改めて基本目標5と6の文言で良いかなど、ご検討いただければと思っています。
	●部会長 この中で様々な施策がありますが、目標5には7項目、目標6には5項目あります。これらの中でどれが優先度が高いのか、また、確実に実施しなければならないものについても検討が必要です。せっかくワークショップなどで市民の方々からご意見をいただいているので、聞きっぱなしにならないようにすべきだと思います。

素案審議	●事務局 そのとおりです。そうした点も、どうしても総合計画はいわゆる役所の業務で非常に広範囲に渡るため、その場しのぎになってしまう部分もありますが、そのあたりは何か工夫を考えていきたいと思います。
	●部会長 何事も結果が全てだと考えています。この第6期総合計画の10年間で、過程が目に見えるようにしていただければと思います。結果が全てではないことは理解していますが、結果も見える形にしていきたいです。
	●事務局 そのあたりは究極的に言えば、やはり今の住みやすさがこれだけ高い恵庭市を維持できるかという点が重要です。
	●部会長 私は先ほど、他所へ移住する可能性を示唆しましたが、10年後も住み続けたいと思えるまちにしていいただければと思います。
	●事務局 住みやすい、住み続けたいといったアンケート項目もありますので、その中で検証していきたいと考えています。
	●副部会長 都市間交流の促進についてですが、恵庭市は明治期に多くの入植者が入り発展したまちです。最初に定住したのは、明治19年に現在の山口県岩国市和木町から入植した土佐の士族で、現在も和木町とは人事交流を行っています。明治20年には山口県萩市の士族も入植しており、山口県から約120世帯が入植しています。そのため、明治期から恵庭に居住する市民は、当然山口県にゆかりのある方々です。しかし、萩市民はほとんどこの事実を知りません。恵庭市民も萩市のことを知りませんし、高知県についても同様です。 地元のカフェ「Café IT フィエスタ」のご先祖様は、明治期に山口県から入植された方ではなく、山口県下関市のご出身ですが、自衛隊に入隊後、恵庭の自衛隊を退職されてからカフェを起業されました。下関で提供されている川棚温泉の瓦そばを提供されており、菅生・大島で現在も栽培されているみかんを使った料理も提供されています。これには山口県民も驚いており、山口県の料理が食べられるのか、といった反応です。そうであれば、高知県の皿鉢料理も誰かが提供すれば面白いでしょう。全て歴史が繋がっています。そのような歴史を紐解くと、様々なこれからの発展の可能性もあるのではないのでしょうか。
	●事務局 そうですね。

素案審議	●副部長 恵庭は明治維新後に政府が立ち上げた市です。藩の士族の長男は家を継ぎますが、士族を辞めると禄が入らなくなるため、次男や三男は自分たちで生計を立てなければなりません。そして、どのように生計を立てるかという時に、ちょうど島松のあたりで、どうやら隣の北広島で稲作に成功したらしいという話が隣同士で伝わってきて、恵庭に入植したのではないのでしょうか。最初に入植してきたのは漁川の周辺です。水を引き込みやすい場所でしたから。そのような歴史もありますので、歴史文化を認めながら、山口県や高知からもっと多くの人が旅行で恵庭に来て、懐かしがってもらえるような情報提供を頑張っても良いと思います。
	●B委員 西島松の宅地開発についてですが、あの地区はどのくらいの規模で、西島松地区と記載されている場所は、もっと広範囲に繋がるのでしょうか。
	●事務局 そのとおりです。島松と繋げたいというマスタープランなので、まだ詳細な図などは出ていませんが、公園緑地なども配置しながらですので、全てが住宅地というわけではなく、これから道の都市計画決定という形になっていくため、まだあくまで構想段階です。
	●副部長 島松地区は北海道農業の聖地のような場所です。しかし、最初に稲作を行ったのは北斗市です。北斗市には「稲作発祥の地」という碑がありますが、島松沢周辺は旧島松駅通のあたりで、そうした場所が紹介される程度で、北広島にその功績を取られてしまっています。しかし、実際には島松沢周辺で成功されています。あれは「いしかり赤毛種の米」です。中山久蔵さんです。稲作の聖地ということも認識してもらおうと良いでしょう。そうでなければ、立ち寄ってみようということにはなりません。そのような文化の発信が重要です。
	●事務局 島松沢のあたりは、アイヌの時代には敵が来ないかどうかの探索場所でもあり、歴史の要衝でもあります。郷土資料館などに行くと詳しい話を聞けるので、なかなか面白いです。
	●副部長 北海道の駅通制度は、日本全国に1,230箇所ほどあり、実はその前身が北海道です。しかし、そのことは全国で知られていません。「駅通制度があったんだ」という程度です。旧島松駅通は現存していますが、隣の市に位置するため残念です。しかし、そこには3つの文化が集結しています。クラーク博

素案審議	士の「ボーイズビーアンビシャス」という言葉があったり、中山久蔵さんの話があったり。北海道の駅通制度の駅が全国に広がったのに、実はその前身が北海道だったということはあまり知られていません。歴史を紐解くと、非常に面白いですね。
	●部会長 先日初めて知りましたが、北広島には長い距離ではありませんが「クラーク博士通り」があります。
	●副部会長 九州の駅通のところにも道の駅の話があるようですが、まだ実現はしていません。
	●部会長 それでは、時間となりました。次回について。
	●事務局 次回ですが、5月20日に部会長、副部会長、30日に全体の審議会を予定しておりましたが、こちらのスケジュールを再調整させていただきたいと思っております。今後調整部会については延期し、今回は5月30日もしくは6月2日、6月3日のこの3日間の中で専門部会をもう一度開催したいと考えております。スケジュールについては改めて個別に確認させていただきます。また、今回の全体の審議会については7月9日水曜日14時からを予定しております。よろしくお願いいたします。
	●部会長 本日もお忙しい中、誠にありがとうございました。また次回も様々なご意見をいただけますよう、よろしくお願いいたします。